

心の宝

令和6年夏号

アオバト
(和名・緑鳩)

森林に生息するが、夏から秋にかけて海岸に現れ海水を摂取する行動が観測される。全身がオリーブ色で覆われており、古来日本では緑色のものも「アオ」と表現したことからこの名が付いたとの説がある。



宗華法本顕

盆棚(精霊棚)の飾り方

しりょうよんだな

お盆期間中は、普段にも増してご先祖様や新盆の霊位に感謝の気持ちを捧げるために、お仏壇の前に盆棚(あるいは精霊棚)という特別な祭壇をおつくりする地域があります。

左のイラストを参考に、各ご家庭にてできる限りのお飾りを行ってみてください。

※お盆のご供養や風習は地域によって異なりますので、詳細は菩提寺にお尋ねください。



盆棚の飾り方の例

- ① ほおすき・笹竹
- ② だんい・そうめん
- ③ 水の子(なすの賽の目)
- ④ 蓮の葉に水
- ⑤ きゅうりの馬
- ⑥ なすの牛
- ⑦ みそはぎ
- ⑧ おいせ・いせ

信徒の心得

- 一、私たちの宗旨は顕本法華宗です
- 一、顕本法華宗の総本山は京都の妙満寺です
- 一、私たちは日蓮大聖人が定められた大曼荼羅を御本尊として篤く仏・法・僧の三宝さまに帰依します
- 一、私たちは妙法蓮華経と日蓮大聖人の御書を教えの拠り所とします
- 一、私たちはお釈迦さまを教主と仰ぎ日蓮大聖人を宗祖日什大正師を開祖として経巻相承を宗是とします
- 一、私たちはお釈迦さまの大慈大悲を信じて努めて菩薩の行を実践します

目次

| | |
|-----------------------|----|
| 宗務総長新任のご挨拶 | 2 |
| 新内局紹介 | 3 |
| 春季報恩大法要 | 4 |
| まなびの時間 | 8 |
| 聖訓カレンダー | 12 |
| インド仏跡巡拝と世界遺産を訪ねる旅のお誘い | 15 |
| ひとくち法話 | 16 |
| 盆法話 | 17 |
| 住職からのまごころ一品 | 18 |
| まちがひ絵さがし | 20 |
| 宗門だより/こちら編集局 | 21 |
| 本山だより | 23 |
| 暑中見舞い | 24 |

宗務総長新任のご挨拶

頭本法華宗 宗務総長 秋葉敬真



宗務総長
秋葉敬真
昭和24年生まれ
東京都豊島区
第1教区 法成寺住職

先の3月に開催されました定期宗会にて、宗務総長に選出され宗務行政の重責を担うこととなりました。74歳にして到底その器ではございませんが、微力ながらも誠心誠意務めさせていただきます。

幸いにも、新進気鋭の優れた上人が結集する新内局の発足となり、常に将来を展望した若い力と英知が、時宜を得た新風となつて宗門興隆の力となることと存じます。さて、令和13年には、宗祖日蓮大聖人の第七百五十御遠忌の聖年をお迎えいたします。全国檀信徒の皆様とともに僧俗一体となつて、宗祖のご鴻恩にお応えすべく準備を進めてまいります。

私たちの頭本法華宗は、久遠の本仏釈尊から宗祖日蓮大聖人、そして開祖日什大正師へと清浄なるみ教えをそのままに、正法を受け継いでおります。その大慈悲につつまれる清らかな信仰をともに深めていきましょう。

日蓮大聖人は、「仏道に入る根本は信を以て本とす」とお示しされています。

また、「行学の二道を励み候べし。行学たえなば仏法は有るべからず。我もいたし、人をも教化候え」とのお言葉を護り、宗門興隆と全国檀信徒並びにすべての皆様のご平安のために、鋭意務めて参りたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

南無妙法蓮華經

合掌

新内局紹介

令和6年3月に開催された、第79定期宗会において新宗務院内局が発足しました。就任の内局各部長・主事のお上人方を紹介いたします。



布教部長
川崎英真
昭和52年生まれ
千葉県茂原市
第4教区 蓮福寺住職



財務部長
島田誠岳
昭和53年生まれ
千葉県茂原市
第4教区 法照寺、妙行寺、
薬王寺住職



宗務次長
津村乗信
昭和36年生まれ
東京都世田谷区
第1教区 常福寺住職



教務部長
藤崎裕学
昭和54年生まれ
千葉県成田市
第2教区 大経寺内



社会部長
中村文治
昭和51年生まれ
兵庫県明石市
第7教区 円乗寺住職



庶務部長
秋山事遷
昭和46年生まれ
岡山県岡山市
第8教区 本行寺住職



主事
多門正崇
平成2年生まれ
福岡県会津若松市
第1教区
妙法寺住職



主事
津村信裕
平成元年生まれ
東京都世田谷区
第1教区
常福寺内



主事
因幡泰善
昭和53年生まれ
千葉県千葉市
第2教区
正福寺住職



主事
吉永義聰
昭和59年生まれ
京都府南丹市
第6教区
大衆寺住職



主事
河野巧禅
昭和56年生まれ
千葉県東金市
第5教区
法壽寺住職

令和6年 春季報恩大法要

仏舎利大塔建立50周年慶讃法要

5月18日(土)・19日(日)の両日にわたり、
 京都の総本山妙満寺において
 春季報恩大法要が盛大に執り行われました。
 また、コロナ禍のため1年遅れとなりましたが、
 昭和48年に建立された仏舎利大塔の
 「仏舎利大塔建立50周年慶讃法要」を
 全座において奉行了しました。
 大川日仰猥下大導師のもと、
 全国末寺僧員、顕立雅楽会等が出仕、
 厳粛に法要が執り行われました。



顕立雅楽会



大川日仰猥下の御親教



法話

本部布教として、布教総監の河野時巧師、特命布教師の朝倉俊泰師の法話がありました。



「私たちの信仰を
考える」
布教総監 河野時巧師
(千葉・妙覚寺住職)



「塔を建てて
供養することの大切さ」
特命布教師 朝倉俊泰師
(千葉・本行寺住職)



感謝状授与

大法要に継続参拝された寺院に対し、表彰が行われました。

大法要団体参拝通算 30回表彰
吉ヶ原 本經寺
(岡山県久米郡美咲町)



大法要団体参拝通算 15回表彰
岡山 本行寺 (岡山市北区)

安珍清姫の鐘供養

能「道成寺」や歌舞伎「京鹿子娘道成寺」で知られる「安珍・清姫の鐘」。

本年も大法要に合わせて、鐘供養を奉行。和歌山道成寺院主・小野俊成様にご臨席いただきました。



インド舞踊奉納

仏舍利大塔建立50周年記念イベント



モニカ・ガンディさん (東京)



クリティ・ゴヤールさん (広島)



マミカ・ガンディさん (東京)

信仰の在り方について



「まなびの時間」とのタイトルをいただきましたが、さて、何を皆様と学んでいけばいいのかなとしばらく考えました。世の中が複雑になればなるほど、私の思考回路は原点に戻ります。絡み合った糸は、丁寧にほぐす作業が一番です。

皆さまのお手元に住職からいただいた『顕本読本』があると思います。この本は顕本法華宗の信仰の在り方の基本が書かれています。



第六章 安心の要諦

安心 あんじん

「安心」とは顕本法華宗では専ら三大秘法^{※1}の妙法蓮華經を受持し、本因妙位^{※2}に安住して人格の向上と生活の浄化を志し、靈山往詣^{※3}を期することにあります。ちよつと難しくなつてしまいました。もう少し具体的に言えば、法華經を抛り所にお題目をお唱えして本仏久遠のお釈迦様のお救いを期して、昨日より今日の幸せを願ひ、平和と喜びを実感し小欲知足の生活を実践することです。そうすることで、本仏お釈迦様がいらつしやる靈山に詣でることができなのです。

『顕本読本』では次のように説かれています。

信仰の目的は、人生に大安心処を

得ることにあります。

安心処のなほところに

平和はありません。

平和のなほところに

歡喜はありません。

歡喜のなほところに

満足はありません。

満足のなほ人生は闇黒です。

しっかりとお題目を唱えて、大きな安心を得ましょう。

さらに、私たちの人生は「苦」と「楽」が糾きまえる縄のようにと述べています。

仏教では「人生畢竟苦」と説きます。
しかし、そこに一つの救いも、楽しみも無いというのではありません。
寒い冬があれば暖かい春がある。
暑い夏が去れば涼しい秋が来る。
苦と楽とが糾きまえる縄のごとくにできているのが人生です。
だがしかし、人生の終局が、万人が嫌悪し、誰もが恐怖する死によって終わることを思うなら、人生は生の喜びに明けて死の悲しみに閉とざされるものというより外ありません。

と、世上の「苦」「楽」の二つを信仰に結ぶことを教えられています。こうした正しい信仰

※1 三大秘法

日蓮大聖人が説いた、末法の人々を救うための根本となる教えで、本門の本尊、本門の戒壇、本門の題目の3つからなる。



したがって、苦・楽を真の大安心処に開頭することができなければ、心の落つきは得られないうえにしよう。

お題目を中心に正しい信仰で「苦」「楽」を結ぶことで「安心」得、安心な生活を作り上げましょう。

聖人は、

苦をば苦とやり、楽をば楽とひらき、
苦・楽ともに思念せて南無妙法蓮華
経とら唱え居させ給え

《四條金吾殿御返事》

により大安心処・大依止処を見出さなければ、清く正しい人生を営むことはできません。

※2 本因妙位

成仏のもととなる修行

※3 靈山往詣

お釈迦さまが常に実在して法を説く、靈鷲山に詣でること



七月

くに 衰微なく土に破壊なくんば
 身はこれ安全にして
 心はこれ禅定ならん

立正安国論

文応元年（一二六〇）大聖人三十九歳

この御書は、災難に見舞われ、乱れはてた世の中で苦しむ人々を救い、安穩な国土を実現するために著されました。

また、このおことばの前に「汝はやく信仰の寸心を改めて速やかに実乗の一善に帰せよ。然らば即ち三界は皆仏国なり。仏国それ衰えんや。十方悉く宝土なり。」と説かれております。

鎌倉幕府第5代執権であった

北条時頼に、一時も早く邪な信仰を打ち捨てて唯一真実の教えである法華経に帰依しなさい。そうすれば、世の中すべてが衰えることもなければ壊れることもない仏の世界である仏国土になります。すべての人が健やかに生きられる平和で安全な国になると説かれております。

大聖人は法華経に帰依することとで死後や別世界に理想を求め

させるのではなく、今生きてこの国土に平和で安穩な社会を実現することを説かれました。

この他にも、人開顯の書である「開目抄」、教法開顯の書として最も重要視される「観心本尊抄」、法華経流布の時をあかした「撰時抄」、かつての師匠である道善房追悼を意として著された「報恩抄」と合わせて「五大部」と言われております。

八月

この経を持つ人々は他人なれども
 同じ靈山へまいりあわせ給うなり

上野殿御返事

文永十一年（一二七四）大聖人五十三歳

この御書は、身延において上野殿（南条時光）へ五種の供物の供養に対しての返礼のお手紙であります。

仏への供養を得勝童子・無勝童子と儒童菩薩の故事をあげて述べられたうえで、法華経（法師品）を用いて、末法の法華経の行者を供養する功德が仏に供養する功德よりもはるかに勝ると示されております。

上野殿が7歳の時に、法華経を信仰していた父が病死。その後関係は途絶えましたが、文永11年大聖人が身延に入ると師檀関係が復活。以後、上野殿はよく大聖人の教えを守り、供養の品を送る熱心な信者として大聖人を支えました。

「法華経を信仰する者同士は、他人であっても同じ靈山浄土で一緒にいることができる。まして

や父も子も同じ法華経を信仰しているなら同じ靈山浄土に生まれることは言うまでもありません」と、大聖人は上野殿が父と同じ法華経の信仰を継承したこと

を喜ばれました。このおことばの後に、大聖人は上野殿に対し若い身で親を亡くしている教えてもらえなかったことに涙が止まらないと優しいおことばを述べられております。

仏舎利大塔建立 50 周年記念

インド仏跡巡拝と 世界遺産を訪ねる旅のお誘い

10日間コース：458,000 円

8日間コース：378,000 円

総本山妙満寺の仏舎利大塔は、写経奉納の浄財によって昭和48年4月に建立されました。

お釈迦さまご成道の聖地に建つインド・ブッダガヤ大塔を模し、「釈尊一仏の御教えにかえる」という顕本法華宗の教義の象徴として、京都・岩倉の境内にそびえ立っています。

この仏舎利大塔建立 50 周年を記念して、「インド仏跡巡拝と世界遺産を訪ねる旅」を企画しました。

ご成道の地「ブッダガヤ」をはじめ、初転法輪の地「サルナート」ご入滅の地「クシナガル」などの聖地を巡拝、お釈迦さまが法華経を説かれた「ラージギル（霊鷲山）」では暁天法要を奉修します。

また、南インドへも足を運び、「アジャンタ石窟」「エローラ石窟群」といった世界遺産の観光も予定しています（10日間コース）。

どなた様もご参加いただけますので、ふるってご応募ください！ご興味のある方にはパンフレット（申し込み書）をお送りしますので、本山までご一報くださいませ。

お問い合わせ：総本山 妙満寺
075-791-7171（担当：湯原）

主催：総本山 妙満寺 後援：顕本法華宗 宗務院



平成 29 年 10 月撮影（前回の巡拝旅行の様子）



サルナート（大きな塔はグメーク塔）

九月

在^{ざい}世^{せい}の月^{つき}は今^{いま}も月^{つき}
在^{ざい}世^{せい}の花^{はな}は今^{いま}も花^{はな}
むかしの功^く徳^{とく}は今^{いま}の功^く徳^{とく}なり

南^{なん}條^{じょう}殿^{どの}御^ご返^{へん}事^じ

建^{けん}治^ち元^{げん}年^{ねん}（二二七五）大^{だい}聖^{せい}人^{にん}五^ご十^{じゅう}四^し歳^{さい}

この御書は、身延において南条時光へ麦等の供養に対しての返礼のお手紙であります。

大聖人のもとには各地に住む信者から食糧や衣類など、様々な供物が届けられました。麦を送ってくれた時光の供養に対して大聖人は「お釈迦さまが在世の月と、今の月と同じである。在世の花と今の花も同じように昔の功德と今の功德も同じでなくてはならない。日

本国上下万民に憎まれて、この身延の山中に餓死せんとする法華経の行者を不便と思われて、高い山や急流の河を越え麦を届けていた

だきました。その志を見れば、それは麦ではなく黄金です。黄金どころか麦の一粒二粒が法華経の一字一字に見えます。」と感謝のおこた

数の仏の供養につながると説いておられます。信者の送る供養の品が決して豪華なものではなくても、大聖人は

その人の「志」を受け止めておられました。貧しい生活のなかで自らの命をつなぐための貴重な品物をおしむことなく他人に分け与えられる行為にこそ、清らかで深い真心がこめられているからであります。

ひとくち 法話

「子どものころの話」

区市寺
教区
第8
赤磐成
岡山県久良良
長濱良



私は4人きょうだいの一番上、長女として生まれました。子どものころは毎日誰かが喧嘩をしていて、とてもにぎやかな家庭でした。一番下の弟とは8歳はなれています。母から「必ず小さい子どもを優先するように」と教えられ、何でも順番は弟が一番先でした。

ある日、いろいろなものを詰め合わせたおやつをいただきました。全部ひろげて、それぞれ欲しいものを取っていきます。一番目は必ず弟から。しかし、弟と私は食べ物の好みがとても似ているのです。私が絶対食べたいものを、弟が先に自分のものにしてしまいます。二番目に欲しかったものも、妹2人のどちらかに先に取られ、私は一番最後。欲しくなかったものをさも欲しかったかのように喜んで見せました。母の言いつけのおかげで、私は欲しいものを我慢できましたし、「弟や妹に一番欲しいものを食べさせてやれた」という自分の満足にもなりました。今思えば、毎日のきょうだい喧嘩を一つ減らせていたのが

良かったなと感じております。施餓鬼供養のもとになったお話の中で、目連尊者が餓鬼道という地獄に堕ちた母を救うために、お釈迦様にその方法を教わりました。目連尊者が母を救えたのも、お釈迦様の教えを疑わず、素直に守ったからだと思えます。お釈迦様は私たちにとつて親のようなものです。目連尊者に倣い、お盆の期間は施餓鬼供養をして仏祖三宝に手を合わせましょう。そしてこの功德がご先祖様へ届きますようにと、法華経をお唱えしましよう。施餓鬼供養によって自分自身も救われますし、皆様のご先祖様もきっと救われることでしょう。

合掌

盆 法話



私は現在、品川天妙国寺で法務に従事しています。当寺院では毎年、7月最後の土日に品川区主催の盆踊りを開催しております。境内の中央に櫓を建て、山門から境内全域に至るまで、各町会の露店が立ち並び、期間中は大いに賑わいます。



第5教区
千葉県東金市
東福寺
常優
児玉

盂蘭盆

さて、盆踊りの由来をご存じでしょうか。

お盆、「盂蘭盆」とは梵語のウランバナ(逆さ吊り)を漢字で音写したもので、「逆さまに釣り下げられるような苦しみにあっている人を救う」という意味です。始まりは、生前他人に施すことをせず、餓鬼道に堕ちてしまった母親を、お釈迦様の弟子の一人で神通力第一と称される目連尊者がお救いする話もととなっています。ある時、目連尊者は神通力を使い、死後の世界を覗いたところ、餓鬼道に堕ちて苦しむ亡き母親の姿を見つけます。

目連尊者は母親を救うためにお釈迦様に教えを請い、修行者たちに食事をふるまう供養をすすめられ、お釈迦様の教えのままにしたところ、その功德によって母親を救うことができたのです。それ以来お盆の時期は、父母や先祖に報恩感謝をささげる重要な日となりました。一説では、その時に目連尊者が喜び踊ったのが盆踊りの始まりといわれています。

さやいんげんと さつま揚げの煮物

材料

- さやいんげん …… 2袋
 さつま揚げ …… 4枚
 水 …… 1カップ
 ★しょうゆ …… 大さじ3
 砂糖 みりん …… 各大さじ2

作り方

- 1 さつま揚げを縦長に薄切りにする。
- 2 さやいんげんは筋を取り、かためにゆでてざるに上げる。
- 3 鍋に★を中火で煮立て1と2を加えて、さやいんげんが柔らかくなるまで弱火で煮る。



住職さんのメモ

さやいんげんは300年以上前に中国から伝わった野菜で、隠元禪師(いんげんぜんじ)が広めたから「いんげん」と言われているそうです。



ビタミンが豊富なうえ、タンパク質も摂れるのでオススメです。

この献立はお弁当のおかずにも最適です。



夏に旬を迎える野菜は、夏バテや脱水予防、栄養補給に効果的な食材です。夏野菜パワーで暑い夏を元気に過ごしましょう！



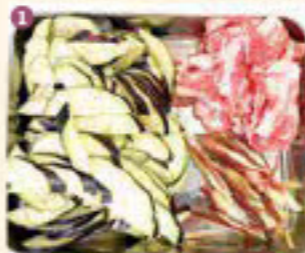
なすとみょうがの炒め物

材料

- なす …… 3個
 みょうが …… 2個
 豚薄切り肉 …… 100g
 塩 …… 適量
 こしょう …… 少々
 ごま油 …… 小さじ2

作り方

- 1 なすはヘタを切り落とし、縦半分に切り、斜めに薄切りにする。みょうがも縦半分に切って、斜めに薄切りにする。
- 2 豚肉は食べやすい大きさに切る。
- 3 フライパンにごま油を熱し、豚肉を並べ、塩を2つまみふって焼く。
- 4 肉にほげ火が通ったら、なすを加えて炒め、なすがしんなりしたらみょうがを加えてサッと炒め、塩小さじ1/2・こしょうで味を整える。



中村文治師

1976年5月5日生、兵庫県姫路市出身。身延山大学仏教学部卒業。岡山県の寺院で5年間の法務経験を経て、現在は円乗寺(兵庫県明石市)住職を務める。



さやいんげんと さつま揚げの煮物 & なすとみょうがの炒め物

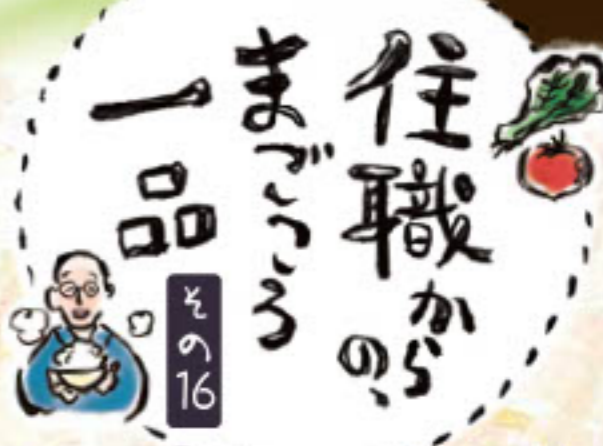
じきほう
(食前の食法)

「天の三光に身を温め、地の五穀に
 魂を養う。皆これ本仏の慈悲なり。」

南無妙法蓮華経。いただきます。」

(天の三光・太陽、月、星 地の五穀・米、麦、粟、豆、黍などの穀物。)

ご住職が、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。



まちがい絵さがし

左の絵と右の絵で違うところが**5つ**あります。
間違いを探してお答えください。

正解者には、抽選で粗品をさしあげます。ぜひ、ご応募ください。



■令和6年春号
まちがい絵さがし答え



- 当選者
- 小橋 市子 様 (千葉県大網白里市)
 - 桑垣 英夫 様 (千葉県茂原市)
 - 鶴岡 輝子 様 (千葉県東金市)
 - 大内 明郎 様 (東京都杉並区)
 - 類家 利和子 様 (青森県八戸市)

ハガキに答えと、住所、氏名、年齢、菩提寺名、「心の宝」への感想を記入の上、下記あて先までご応募ください。
〒283-0805
千葉県東金市松之郷 480-1
願成就寺内
「心の宝」まちがい絵さがし係

〆切り 8月末日
(消印有効)

宗門だより

東部教区連合会

東部教区連合会先師法要

4月10日、東部連合会先師法要、総会が第2教区新蔵寺(住職・伊藤正信師)にて開かれました。桜咲く暖かななか、東日本の僧員が集まり、先師への報恩感謝の題目が響き渡りました。



第五教区

多寶山妙本寺落慶法要

3月16日、千葉県東金市下武射田 妙本寺(住職・鈴木無著師)において、本堂落慶式が厳修されました。

落慶式は、檀信徒と両師寮僧員を中心に執り行われ、妙本寺の益々の寺門興隆と寺檀和合を願われました。



什青会

総本山清掃奉仕

5月17日、什青会(会長・湯原正純師)会員有志と本山塔頭執事による、総本山妙満寺の清掃奉仕が行われました。

翌日の春季報恩大法要の事前準備として、参詣者が気持ちよくお参りできるようにと、本堂、客殿、大書院等、境内全域が清掃されました。



花まつり法要

4月14日、千葉県東金市松之郷 本松寺(住職・日暮義隆師)において、花まつり法要を、顕立雅楽会とともに厳修しました。



峰楽院徹志日成上人



千葉県千葉市・本城寺44世高貫泰成師が令和6年4月7日に世寿74歳にて遷化されました。宗務総長・秋葉敬真師（東京都・法成寺住職）導師のもと4月17日に通夜、18日に本葬が厳修されました。

略歴

昭和26年生まれ。昭和52年千葉県東金市・元福寺住職、平成2年千葉県千葉市・本城寺住職。伽藍復興・寺門興隆に尽力された。宗内においては、昭和56年より令和5年にいたるまで、「心の宝」編集局員、宗会議員、宗会議長、宗制等検討委員会、開祖日什大正師御生誕七〇〇年奉行委員会、宗綱参議委員会、本山参与など様々な役職を務められた。

本山だより

第633回御開山会

2月28日、大川日仰猷下大導師のもと、第633回目日什大正師ご命日報恩法要「御開山会」と、あわせて「釈尊御涅槃会」「宗祖日蓮大聖人御降誕会」が奉修されました。

法要に先立ち、本山執事・足立幸謙師（塔頭大慈院住職）の法話があり、



参詣者は真剣な面持ちで拝聴していました。

春季彼岸会

3月20日、大川日仰猷下大導師のもと、春季彼岸中日法要が奉行されました。あいにくの雨模様に見舞われ、肌寒いなかでの法要となりました。

法要に先立ち、京都妙祐久遠寺住職・鹿野恒仁師の法話があり、参詣者は熱心に耳を傾けていました。

法要後には、妙満寺檀信徒の会「満山会」（会長 川成就院兼代・山田和夫氏）の総会を開催、令和5年度活動・決算報告、令和

こちら編集局

編集局が、6年ぶりに関西から関東へと移動いたしました。「心の宝」は今号で138号を迎え、宗門の布教誌としての歴史と先代の編集局員の苦勞が積み重なって今日に至っていると、感慨深く思います。

前編集局員が、「考え続ける」大切さを教えてくださいました。「考え続ける」ことの喜びを忘れずに編集に精進して参りたいと思います。

我此土安穩。寿命品のお自我偈の一文で、書き下しますと、我が此の土は安穩にして……となります。「心の宝」の読者の皆様がこの誌面を手にして読んだ時、心が安らかに穏やかなるような、そんな布教誌「心の宝」を作り上げて行きたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いたします。



前列右から、局長：小川正展、主任：前田成朋、局員：小川正義、後列右から、局員：吉田英心、局員：石島浩龍、会計：飯澤道念

たお話を参詣者は熱心に拝聴していました。

法要後には、春恒例の満山会主催「観桜会」を開催しました。約40名が参加、満開となった大書院前のシダレザクラを愛でながら、お花見弁当を囲みました。成就院役員の方々のお世話で、ギター奏者・山本幸二さんの演奏やお茶菓子の接待も行われ、楽しいひと時を過ごしました。



6年度活動計画・予算案が審議され、提案通りに承認されました。

花まつり（釈尊降誕会）観桜会

4月6日、大川日仰猷下大導師のもと花まつり（釈尊降誕会）が奉行されました。

法要に先立ち、京都大乘寺住職・吉永義聰師の法話があり、熱のこもつ



令和6年
本山行事

- ▶ 1/1(月・祝)
新歳国禊会
- ▶ 2/28(水)
御開山会
釈尊涅槃会
宗祖降誕会
- ▶ 3/20(水・祝)
春季彼岸会
- ▶ 4/6(土)
花まつり
- ▶ 5/18(土)・19(日)
春季報恩大法要
- ▶ **8/3(土)**
盂蘭盆施餓鬼会
- ▶ 9/22(日・祝)
秋季彼岸会
敬老会
- ▶ 10/12(土)・13(日)
宗祖日蓮大聖人
御会式
- ▶ 12/8(日)
釈尊成道会
大根だき
- ▶ 12/31(火)
年送りの鐘

うらぼんせがきえ
盂蘭盆施餓鬼会

8月3日(土) 11:00 ~ 大導師 大川日仰猥下

盂蘭盆会とは、餓鬼道に堕ちて苦しむ母親を、布施の善行を積んで救った目連尊者の故事にならう行事です。

現在では、この時季に家族そろって菩提寺で営まれる施餓鬼会に参詣し、またお墓参りをして、ご先祖の精霊や私たちの命を支える有縁無縁の精霊に感謝の気持ちを表します。

多くの生命によって「生かされている」ありがたさを感じ、そして日ごろの^{おこ}驕りを反省し、布施行の大切さを理解して実践しましょう。山内一同、皆様のご参詣を心よりお待ちしております。



日什大正師留魂の根本道場

顕本法華宗 総本山妙満寺

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町 91
TEL 075-791-7171 FAX 075-791-7267
郵便振替 01060-8-5040 (口座名「妙満寺」)
HP <http://myomanji.jp/>



季刊「心の宝」第138号(令和6年夏号)

発行所 顕本法華宗宗務院

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町 91 総本山妙満寺内

TEL 075(791)7171 FAX 075(791)7267 HP <http://www.kenpon.jp/>

発行日 令和6年6月20日

菩提寺